
fate/soul eater

frost

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

f a t e / s o u l e a t e r

【Nコード】

N 8 4 3 8 S

【作者名】

f r o s t

【あらすじ】

f a t e × S o u l E a t e r のクロス物

予告短編みたいなものです。

大丈夫な方どうぞ！

反応がよければ連載したいな

テンプレで幼稚な文章です。

よろしくおねがいします！

「えっえーということは・・・失敗!？」
ツインテールの少女は叫んでいた。

その少女、マカIIアルバーンは武器職人。

マカの相方ソウルイーターを死神様の元で仕える「デスサイズ」にするために、99個の鬼神の卵と化した魂と魔女の魂1個。合計100個の魂を集めていた。

いままで順調だったのだ。

まさかだった。

魔女だと思っていた魂は、ただの魔力の強い猫の魂だった。

死神様に

「魔女以外の魂を食べちゃったら、99個の鬼神の卵と化した魂は没収だからね？」

「没収だからね」

なんども浮かぶ光景。

「ああ……」

「これで完璧にクールな男になれると思ったのによー」
ソウルも嘆いていた。

「あれ？なんか入り込んだみたいだね。敵対心はないようだけど」
死神様はいつもの調子で言う。

「デスサイズ君見てきて」

赤い髪のスーツを着た男に言う。この男は死神様に仕える鎌でマカの父親だ。

超女好きということでマカに嫌われているが……それなりに有能な武器である。

「えーマカが……」

ガンッ

「文句言うならチョップ出すよ」

「出す前に言ってください……」

「よく分からないものだから気をつけてね？あと、できる限りここに連れてくるように」

死神様は声を少し低くして言う。

「分かりました」

デスサイズは、死神様の下を離れ、死神様のいうなにかを見に行くこととなった。

「俺はビッグになる男だぜ？」

水色髪の少年はそういった。

そう、ブラックスターはいまだに鬼神と化した魂を回収できずにいた。

ブラックスターの相方椿はため息をつく。

先日ミフネという用心棒と戦った。

楽勝とまでは行かなかったが、何とかブラックスターは倒したのだ。

強いんだけどね。

椿は思う。

強いけど、自己主張が激しくて。

やさしいけど、一番になりたくて

そんな彼だからついていくと決めた。

「もう少し簡単な物件を探しましょうか」
椿はブラックスターにそういった。

死神様の言う何かを見つけた。

「ふむ……ここはどういった世界なのかよく分かっていないのだがね」

多分俺に話しかけているのだろう。向こうは結構手だれていると見た。

白髪でこげ茶色の肌そして赤い外套。

一目見ただけで覚えれそうなやつだ。

「おめえか、死神様が言っていたよくわからないものとは……」

「人をよく分らないものの扱いしないで欲しいのだが」
むっとしながら言うよく分らないもの。

「死神様がお呼びだ」

「死神様？」

「……死神様を知らないのか？」

「さっきも言っただろう。ここはどういった世界なのか自分自身分かっている」と

「……とりあえずこい」

「ここは付いて行ったほうが得策のようだな」

なんでこんな得たいの知れないものを連れて行かないといけないのか。

仕事だからとはいえ……

マカに危害を加えたら容赦しないと心に誓って死神様の元へと向か

った。

「なんて美しいシンメトリーなんだ」

黒服黒髪少年は言う。

その少年デスザキッドは神経質でシンメトリーをこよなく愛する男だった。

キッドの相棒エリザベス（愛称リズ）とパトリシア（愛称パティ）はそんな少年にあきれもするが、あこがれていた。

死神様から言い渡された任務

アヌビスの墓で魔女が鬼神の卵と化した魂を作っていると。

それを止めるためにキッドたちは向かったのだがシンメトリーな敵だったため倒せずにいた。

しかし進化した敵はシンメトリーではなかった。

それに逆切れをしたキッドは攻撃をし、その敵を倒したのだ。

暴れまわったおかげでシンメトリーの遺跡は崩れたのだが……

「おれは豚野郎だ……ダメだ死のう」

「ほら誰だって、ピラミッドのひとつや二つ壊すって！」

「そうそう！」

「おまえら……」

そうここから始まるのだ。

マカ、ソウル、ブラックスター、椿、キッド、パティ、リズ

そして白髪の青年

ここから運命が動き出す。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8438s/>

fate/soul eater

2011年10月8日22時06分発行